

1.3 理解の考え方

(1) 脳科学における理解

知覚すると、頭の中に一般化・抽象化された心理的な心象（イメージ）が作られます。ここで、心象とは、心に浮かべることができるすべての事象であり、必ずしも現実起きた現象だけではなく、イメージとして頭脳に浮かぶ非現実的な事柄もふくまれます。

イメージには、①知覚イメージ（知覚）と②記憶イメージ（概念）があります。脳科学では、理解をこれらのイメージの対応付けとして、以下のように捉えます。

- ①知覚イメージと記憶イメージの対応付け
- ②記憶イメージの整理
- ③その他の直感的な理解

■知覚イメージと記憶イメージの対応付け

この対応付けには、複数の知覚イメージをひとつの記憶イメージに対応付けるケース（図 1-7）と、知覚イメージを複数の記憶イメージ（概念）に対応付けるケース（図 1-8）があります。

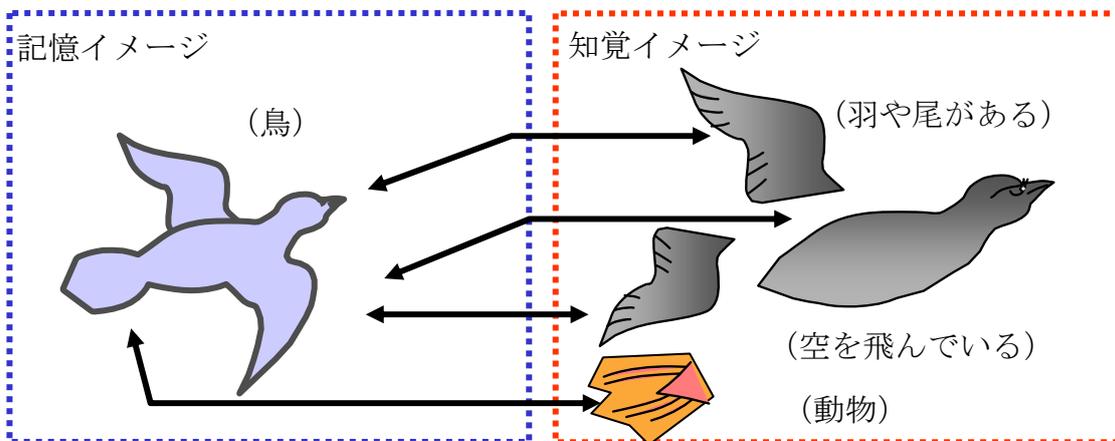


図 1-7 複数の知覚イメージを1つの記憶イメージに対応付ける